

特集3 / 政治・経済・文化におけるウェルビーイング——繁栄と地域統合をめぐる多層的・多次的理論と実証分析

特集にあたって

千葉大学大学院社会科学研究院教授
小林 正弥

本特集は、公正社会や地域統合についてのプロジェクトの成果である。その一環として、2019年12月5日にリンジー・オーズ氏やアロン・ジャーダン氏（ともにメルボルン大学ポジティブ心理学センター）を招いてポジティブ政治心理学セミナーを開催し、オーズ氏からは繁栄可能性理論についての講演があった。それにも示唆されて、繁栄と地域統合を主題とする特集を企画した¹。

この主題の問題意識から見ると、今の世界では憂慮すべき事態が進行している。地球環境問題は悪化して異常気象や災害が内外で頻発している。「アメリカ第一」を唱えるトランプ大統領が登場して国際協調主義を大きく損ない、イギリスはEUから離脱して、ヨーロッパ大陸でも右翼のポピュリズムが台頭している。現時点（2020年3月）では新型コロナ・ウイルスのために、各国が緊急の対策を余儀なくされ、日米も含め各国が他国からの入国を大幅に制限して国際交流すら難しくなっていて、株式市場の動揺も始まっている。

このような事態は、様々な政治的・外交的緊張関係を高め、紛争や経済的後退をはじめ世界的な不幸を飛躍的に増大しかねない。なぜこのような事態が生じているのだろうか。このような事態を和らげ、繁栄や地域統合を促進するためにはどのようにすればいいのだろうか。このような現実的問題を考えるため

¹ 千葉大学リーディング研究育成プログラム「未来型公正社会研究」（推進責任者 水島治郎）および文部科学省 科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて——関係性中心の融合型人文社会科学の確立」（領域代表：酒井啓子、平成28年度～32年度）。

の手がかりとして、本特集では政治・経済・宗教のそれぞれに焦点をあてて、ウェルビーイングについての思想的・科学的研究を掲載する。

まず小林正弥「ポジティブな動態的公共システム論——多水準、3次元・位相・領域の分析枠組み」は、このような難局の思想的原因を近代以降の原子論的世界観と学問に求め、リベラル・コミュニタリアニズムの公共哲学を踏まえて、新しい公共研究の理論を提起する。オーズ氏のシステム論的ポジティブ心理学や繁栄可能性理論に啓発され、ポジティブ心理学とシステム理論を統合することによって、ポジティブな動態的公共システム論の構築を図る²。

それは、人間というシステムを基礎において、地方的・国民的・地域的・地球的というように、空間的に多層的なコミュニティを想定している。垂直的・水平的・超越的という3次元的な精神の空間を念頭に置いて、それぞれに対応する位相・領域において政治的・経済的・文化的な下位システムが展開していると考えられる。そして、それらの相互の関係を分析し、ウェルビーイングを増進して栄福（フラワーリッシュ）を実現するような規範理論を構想する。

そして、この理論的枠組みに基づく多層的観点から、日本周辺の国際関係と東アジアの地域統合に関する動向と構想を分析する視座を示している。それは、日米中韓というような国民国家とそれを超える地域的統合という複層的コミュニティの動態や、日本における上述の3領域相互の関係を分析するという点で、多水準的にして多次的・多位的な分析である。

多次的観点に関しては、本特集では、政治・経済・文化という3領域において、それぞれ焦点を絞った研究成果を収録し、繁栄や地域統合をめぐる動態を明らかにしている。第1に政治領域については、石戸光・“田代佑妃・Sami Wongの“Text Mining Analysis of President Trump’s Twitter: A Nexus with Societal Wellbeing (トランプ大統領のツイッターに関するテキスト解析：社会的幸福度との連関を主眼に)”が、世界的な繁栄や地域統合の動向に最大の影響を与える政治家・トランプ大統領について分析し、その垂直的なリーダーシッ

² この論文は、ポジティブ政治心理学セミナーにおける英語講演を基礎にしている。

プと社会的ウェルビーイングとの関係を指摘している。

トランプ大統領のツイッターについてテキスト解析を行い、ポジティブな単語とネガティブな単語の種類と頻度を明らかにし、単語間のネットワークズを描き出して、前者の「偉大な」(仕事や人々)とか後者の「不誠実」「腐敗」(したメディア・ニュース)という言葉が中心にあることを明らかにした。

このような言葉遣いは、センセーショナルで影響力が強いが、分析的思考を欠いていて、そのメッセージは敵意、攻撃性、差別に満ちている。ここに現れているような右翼的で権威主義的リーダーシップの背景には、民主主義や国際主義に背反する感情的・心理的特質やナルシシズムのパーソナリティが存在している。そして、こういった個人的特質と社会的なウェルビーイングとの間にはつながりがあり、アメリカ大統領の自国第一主義は地球的コミュニティに負の影響を与えうることが危惧されるのである。

第2に経済領域については、小林正弥の前掲論文において「食品企業における従業員のポジティブな人格的特性とパフォーマンス」についての研究成果を要約的に紹介している。ポジティブ心理学の方法に立脚して日本の食品企業を調査し、店舗や工場の従業員のウェルビーイングや楽観主義、美徳などを調べて、それらのポジティブな心理とパフォーマンスとの関係が明らかになった。

この企業では、従業員の(私生活を含めた)人生のウェルビーイングが、職場のウェルビーイング以上に、店舗・工場のパフォーマンスと正の方向で関係していた。これほどまでではないものの、没頭・向社会性や美徳も、それぞれ店舗や工場のパフォーマンスと正の方向で関係している場合がある。

さらに調査月の前後のパフォーマンスとポジティブ度との関係を調べ、店舗では人生ウェルビーイングなどのポジティブ度がパフォーマンスに好影響を与えるという因果関係が存在する可能性が高まった。

これらの結果が意味するところは実践的にも大きく、従業員の人生のウェルビーイングを高めることがパフォーマンスの上昇につながる可能性が十分にあることになる。また、個々の経済主体がポジティブ度を高めることによって全体の経済的な発展にもつながると想像できる。

第3に文化領域については、石戸光の“Human Happiness, Sola Fide and the Divine Kingdom: A Perspective from Biblical Theology (人の幸福、信仰義認と神の国の関係性：聖書神学からの考察)”が、宗教的なウェルビーイングに焦点を当てて、キリスト教神学の角度から、人間の幸福と信仰義認論と（超越的信仰コミュニティにおける）神の国との関係を思想的に論じている。

まず新約聖書における使徒パウロの「ガラテヤの信徒たちへの手紙」から、世俗的な満足の最大化を追求する「人間の経済」と、永遠の救済への「神の経済」を対比させて、ユダヤ教の律法の遵守による義の行いではなく、信仰につづく恩寵による救済という普遍主義的福音を説く信仰義認論を説明する。

次いで近代の会計的観点から、救済のための「資産」を想定し、罪という「負債」を、人間的救済という「価値（功德、merit）」によって帳消しにするというバランス・シートの発想を用いて、ユダヤ教やギリシャ哲学、ローマのプラグマティズムなど他の「人間の経済」の論理と対比し、（律法遵守ではなくキリストへの信仰のみによって資産が増えるという）パウロの「神の経済」の論理を明らかにする。

そして信仰義認論と「神の国」との社会的・心理的なつながりを論じる。今日の社会では「神の経済」と「人間の経済」とが乖離している。キリストを唯一の資産・資本とする前者の論理に基づき、神への信仰のみによって、自己の裡に存する「神の王国」が国境と（経済的・心理的・政治的な）地上の制約を越えて、「永遠の幸福」という救済に至ることができる。人間の幸福は地上の王国においても追求することができるものの、それが不完全で短期間なものであるのに対し、「神の王国」による幸福は、信仰に関するコミューナルな性格を持つ。EUのような地上の地域統合は、地上の便益を越えて、いわばコミュニタリアニズム的な特質を持つこの種の信仰によって、しばしば推進されているという。

政治・経済・文化の3領域それぞれにおけるこれらの研究成果は、ウェルビーイングを通して繁栄と地域統合を実証的・思想的に考える手がかりとなろう。

まず、トランプ大統領は地上の最大の権力者の1人であり、政治という垂直的次元の担い手である。ツイッターによるポジティブ・ネガティブな心理のテ

キスト解析は、ポジティブ心理学でも最近開拓された最新の科学的分析手法である。それによって明らかになった大統領の心理的特質が権威主義的リーダーシップによる自国第1主義となって国際的秩序や世界的な地域統合を大きく後退させており、世界的な繁栄を脅かしつつある。

次に、企業は経済領域における対等で水平的な主体だが、店長や従業員の心理的なポジティブ度が、そのパフォーマンスに影響を与える事例が統計的に明らかになった。業績をあげるためにも、ウェルビーイングや美徳を向上させることが有益であるという可能性が高まったわけである。しかも、職場におけるウェルビーイング以上に、人生におけるウェルビーイングにこの効果が検出された。たとえば、従業員のウェルビーイングを蔑ろにするブラック企業よりも、それに配慮する企業の方が、長期的には発展するかもしれない。このような科学的知見は、個別企業の経営とともに、経済全体のビジョンや政策にも資するところがあり、経済的繁栄に貢献できるかもしれない。

最後に、超越的な宗教は文化領域で中心的な役割を歴史的に果たしてきた。ユダヤ教のような民族宗教は、その教義によっていかにその民族の幸福に資するところがあっても、その外部の人々を救うことは難しい。ここに政治的なナショナリズムと通底する限界がある。西洋においてこれを歴史的に突破したのが、プロテスタントにおける信仰義認論だった。地域統合にはナショナルな利益の衝突や文化的相違などの世俗的障壁があるので、これを越えて地域統合を促進するためには、民族性や国民性を越えた超越的次元が有益な役割を果たさるだろう。

まとめて考えれば、今日の世界では繁栄や地域統合にとって、政治的にはアメリカ大統領のネガティブな心理的特質が負の要因となっているのに対し、世界の国々で人々や政治家がポジティブな心理を持てば逆の展望が開けるかもしれない。経済的には個別企業をはじめ経済主体がポジティブな心理を持てば、繁栄への道が現れるかもしれない。文化的には超越的な普遍主義的観点からのウェルビーイングの向上が個人々の幸福とともに地域統合も進展し、世界的な平和にもつながるかもしれない。

個々の分析や考察はそれぞれの領域の1例に焦点を置いているとは言え、本特集では、国家の政治指導者・個別企業・普遍主義的な超越的コミュニティと
いうように、国の内外や世界といった多層的なコミュニティにおける主体が対
象となっているし、垂直的政治・水平的経済・超越的宗教という多次元的な領
域が考察対象となっている。さらに政治経済においては、最先端の統計的方法
も用いた実証研究が行われ、原理的に実証分析が困難な宗教においては経済的
な観点からの思想的考察が行われている。この多層的・多次元的な研究が、混
迷の時代において繁栄と地域統合に貢献する要因を明らかにすることができれ
ば、これに勝る幸いはない。

(こばやし まさや)